



1. 夏休みが終わりました。

暑かった夏休みが明け、日焼けした子どもたちの元気な笑顔が学校に戻ってきました。

1学期から引き続き、朝、校門で大きな声であいさつをしてくれる子どもが多く、充実した夏休みを過ごした様子が伝わってきました。2学期は、1年間で一番教育活動が充実する期間であり、子どもたちのさらなる飛躍の時です。文化祭や職業体験、実力テストなど、授業や部活動に加えて学校行事が数多くあります。実りの秋となりますよう、教職員一同力を合わせて取り組んでまいります。

2. 9月は「いじめ未然防止啓発月間」です。

枚方市では、9月を「いじめ未然防止啓発月間」として、いじめの未然防止及び早期発見をめざした取組を推進しています。本校におきましても、「枚方市立招提中学校いじめ防止基本方針」に則り、いじめの未然防止及び早期発見、早期対応に努めているところです。

いじめは、その子どもの将来にわたって内面を深く傷つけるものであり、子どもの健全な成長に影響を及ぼす、まさに人権にかかわる重大な問題です。本校では、教育活動のすべてにおいて生命や人権を大切にする精神を貫くことや、教職員自身が、子どもを一人ひとり多様な個性を持つかけがえのない存在として尊重し、子どもの人格のすこやかな発達を支援するという立場で指導を徹底してまいります。

3. 第107回全国高等学校野球選手権大会が開催されました。

2025年8月5日(火)から8月22日(金)まで、阪神甲子園球場で第107回全国高等学校野球選手権大会が開催され、沖縄尚学が3対1で日大三高に勝ち、初優勝を果たしました。優勝した沖縄尚学の3年生たちは、好投する2年生ピッチャーを何とか助けたいという思いで、必死にプレーを続けたそうです。一方の日大三高の監督も、「準優勝できたのは、先輩と後輩が尊敬しあう関係が長く続いたことが要因だった」とインタビューに答えていました。このようなことから、目標を達成するために大切なことは、明確な目標を持ち、他人と良い人間関係を築き、くじけそうな時に背中を押してくれる仲間がいることだと、改めて学ぶことができました。

また、今年の夏の全国高校野球は、厳しい暑さから選手を守るため、午前と夕方に分けて試合を行う「2部制」が導入されました。その甲斐あってか、大会期間中に熱中症の疑いで処置を受けた選手の人数は去年ののべ58人からのべ24人と大幅に少なくなったそうです。暑い夏の甲子園でも、さすがに暑さ対策が必要となってきたようです。

酷暑が続くこの夏休み期間中、多くの子どもたちは、朝早くから部活動や勉強会などに取り組んでいました。一方、“夏バテ”ではないにしても、「暑くて何もやる気が出ない」、「夏休みの宿題に手がつかない」、と感じた人もいたかも知れません。面倒な物事を避けて通れるのならそれに越したことはありませんが、問題の解決を先送りにすればするほど、心は重くなっていきます。

江戸時代後期の農政家である二宮尊徳(にのみやたかのり<そんとく>)は、『遠きをはかる者は富み、近きをはかる者は貧す』という言葉を残しました。日常にある小さなやるべきことの一つ一つを自分の将来(進路)に結び付けることは難しいかも知れませんが、もし、「やる気が出ない、でも、このままではいけない」と思ったら、現状を打開するために、まずは、自分ができそうな何かしら小さなことからでも着手してみましよう。その小さなことを積み重ねていくと、少しずつでも前に進むことができると思います。